

栗田ひろゆき議会レポート

令和5年2月議会が開会されました。

令和4年度の補正予算と令和5年度の当初予算が審議されました。市民の皆さんと共に静岡市を夢のある、しかも安心・安全なまちにしていきたいと思えます。

田辺静岡市長が2月議会をもちまして退任されることとなりました。



静岡市議会議員 栗田裕之

海洋文化施設（水族館）建設事業費 ⇒ 反対しました。

海洋文化施設建設については、創生静岡は、コロナ禍の影響で経済が低迷している中、総額240億円を今この時期に支出するのに値する事業か疑問があります。

市民への説明も不十分で計画が未成熟・海洋文化施設の全体像がはっきりわからない。経済波及効果予測が楽観的過ぎて事業として成り立つのか不明確であり、町の賑わいの創出になるか疑問です。

その上、建設資材の高騰などの不安材料が有り、水族館機能と博物館機能の融合性が未調整であります。東海大学やJAMSTECとの位置づけの不透明さも有り、人口減少の著しい清水区の経済活性化の拠点となりうる施設かどうか疑問が残ります。

今、このミュージアムに240億円をかけるなら、シャッター通り解消・人口減少対策・農漁業の再興策や子育て支援費・交通網充実・学校支援などに優先的に充てるのが必要ではないか？

その上、新市長の意見を取り入れた計画であるべきなのに、駆け込み的に業者と契約を結ぶとのこと。今後の将来を担う新リーダーの元での計画であるべきだ、とわが会派は主張してきました。

あくまでも市民の為の施設であり、市民から期待され「できて良かった」といわれる施設であるべきです。

以上のような理由により、創生静岡は海洋文化施設の建設に正面から反対しているのではなく、条件が揃い必要となればその時には支持して応援するつもりであります。ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。



海洋文化施設 建設予定地



出典：静岡市「令和5年度 重点事業の概要」
海洋文化施設建設事業

市民環境教育委員会

市民生活に密接に関わる議案に生活者の声を反映

【市民局】 37.9 億円

自治会・町内会関係費 4.9 億円、登録証明書交付事業 5.3 億円など

【環境局】 119.3 億円

脱炭素先行地域再エネ設備等導入事業 4 億円、ごみ収集事業 20.8 億円など

【教育局】 409.7 億円

小中学校維持管理事業 26.3 億円、部活動環境支援事業 0.5 億円など

小中学校のトイレなど施設改修の早期完了。台風15号災害の対応を求めました。

(宮澤圭輔委員長・浜田佑介)



観光文化交流委員会

清水港客船誘致負担金 7954 万円余

清水港に寄港する客船に歓送迎演奏や花火打ち上げ、マルシェ、ボランティア通訳等を実施する誘致委員会に公費負担する。今年度は77隻の客船が寄港する見通しだ。

賑わい創出イベント 5 億 8 千万円余

静岡まつり、安倍川花火大会、清水みなと祭り、大道芸ワールドカップ in 静岡、TOKYO GIRLS COLLECTION SHIZUOKA など、本市で令和5年度に開催予定のイベントに係る支援を公費で行う。(栗田裕之)



厚生委員会

創生静岡が主導！しずおかハグくむ子育てプロジェクト（愛称「しずハグ」）がスタート。

I 経済的支援

【第2子以降の保育料完全無償化】 6億9,145万円
きょうだいの就学に関わらず、所得制限なく第2子以降の保育料を無償化。

【出産・子育て応援給付金給付事業】 5億5,149万円
妊娠時と出産時に各5万円の経済的支援を実施する。

II 子供の安全・安心の確保

【子供の安全対策促進事業】 6,828万円
私立こども園・放課後児童クラブの送迎自動車に、安全装置を導入、置き去り事故を防止する。



「人への投資」は創生静岡の3本柱の一つです。少子化対策は市政の最も重要な課題であり、若者が本市を選択する大切な視点です。今後も生活者の目線に立った施策の推進に努めていきます。(白鳥実)

都市建設委員会

静岡型 MaaS 基幹事業 4500 万円

中山間地オンデマンド交通、市街地における民間サブスクリプションタクシーと連携した乗り合いタクシーの運行、自動運転車両活用に向けた実証実験

盛土規制法基礎調査事業 3200 万円

盛土等による災害から人命を守ることを目的とした規制区域設定のための調査
創生静岡が提言した「災害に強く持続可能なまちづくり」に向け災害対応の強化や人中心のまちづくりを求めました。(石井孝治)



総務委員会

・危機管理総局 6.4億円

災害時にすべての市民が災害関連情報を取得できるよう風水害緊急避難場所258か所にモニターを設置するなど(1900万円)他

・総務局 372.4億円

活用しにくいなど指摘のあった市公式HPをリニューアル等の約2億5200万円など

・企画局 28.2億円

サッカースタジアム建設検討事業4700万円ほか

・財政局 418億円

ふるさと寄付金受け入れ推進事業7.5億円他

【意見要望】財政規律を重視すること。大型公共事業は複合、集約化を。市民生活に密着した予算の確保(風間重樹)



企業消防委員会

上下水道は減災・老朽化対策が急務

I 災害対応と体制の強化

【承元寺取水口関連 緊急対策等】総額 4億3,600万円
令和4年台風15号で被災し、清水区での大規模断水の主な原因となった興津川の承元寺取水口の復旧修繕、次回出水時に備える護岸本復旧や緊急対策とともに、将来的な水源の複数化など検討業務も行われる。

II 消防局施設設備の強化 (10億417万1千円) 他

消防総合情報システムの更新事業4500万円他、はしご消防ポンプ自動車など装備の購入が引き続き行われる。消防局では119番通報時に、心肺蘇生などスマホ動画を活用して通報者に指示できるようにする等のシステム充実が図られている。



令和4年度は呉服町火災殉職事案、台風15号災害など、当局の姿勢が問われる事態が相次ぎました。市民の生命と財産、公衆衛生を守るためにも、来年度はさらなる議論の深化が求められます。(安竹信男委員長・長沼滋雄)

令和5年度主要事業の予算（清水区中心）

（単位：千円）

1 幼保支援課	
第2子以降保育料の完全無償化費	691,452
就職氷河期世代雇用促進事業費	37,280
2 企画課	
サッカースタジアム検討事業費	31,000
3 海洋文化都市政策課	
海洋文化施設建設事業費	3,980,819
清水港海づり公園整備費	204,500
清水港客船誘致負担金事業費	79,546
4 清水駅周辺整備課	
清水駅東口ペDESTリアンデッキ整備費	958,500
5 環境創造課	
脱炭素再エネ設備助成費	100,000
6 教育総務課	
両河内自然の家整備費	83,000
7 管財課	
清水庁舎改修事業調査費	62,483
8 生涯学習推進課	
船越交流館建設費	306,254
9 文化財課	
三保松原保全活動費	79,481
10 保健衛生医療課	
清水地域医療体制確保事業費	10,000
11 大内新田土地活用策定費	50,000
12 清水地区学校給食センター整備費	23,100
13 清水クリエイティブタウン管理運営費	90,645
14 七夕まつり補助金	9,000
15 灯籠まつり補助金	2,365
16 清水港まつり補助金	73,081
17 富士山コスプレ世界大会補助金	5,000
18 清水駅周辺整備事業費	1,008,834
19 三保松原文化センター管理費	32,286
20 小島陣屋跡保存整備事業	114,815



精緻な事業計画と投資による効果測定値 ＝ 風間政調会長が創生静岡会派の代表質問で

代表質問では市長の政治姿勢、新年度予算、大型公共事業とまちづくり、台風15号の検証、呉服町火災での消防事故等について、当局の見解を質しました。今議会が田辺市長の最後の答弁となりました。この中で、大型公共事業についての質問をとりあげ解説します。



【質問】田辺市長は合併当時、静岡新聞の投稿欄に「行政が多額の税金で公共施設を建設する時代ではないだろう。都市の中身を充実させるのは市民、官民一体となった努力の積み重ねでしかない」と記していま

した。静岡市は今、厳しい財政状況の中、相次いで大型公共事業を計画、実施しています。当時の考えと矛盾していないのでしょうか。

【市長答弁】行政だけが多額の税金を負担する時代ではないと述べたものです。(海洋文化施設は)公益性と事業性を両立させ官民一体となって整備していきます。公共が先行することで民間投資を喚起、経済活性化の好循環を作ることは行政として重要な役割だと考えます。

【解説】人口減少が進み財政状況は今後一層厳しさを増す中、海洋文化施設など大型公共事業の建設計画が目白押しです。市長の答弁の通り、公共事業によって民間投資が喚起され、経済の活性化の好循環を作ることができたのは高度成長時代の遠い過去の話。環境は大きく変化しています。公共事業そのものは否定しないが、税金が投入される事業については、議会として緻密な事業計画と投資による効果測定値を厳しい目で精査していきます。(風間重樹政調会長)

第4次総合計画策定される

市民とともに目指す未来への指針「第4次静岡市総合計画」は本年よりスタート

世界から注目されるまちを目標に、本年から2030年度までの8年間、SDGs推進・多文化共生・人口活力向上・DX・GXなど時代の潮流を踏まえた、静岡市まちづくり計画です。



5大重点政策 ①子どもの育ちと長寿を支えるまちの推進②アートとスポーツがあふれるまちの推進③城下町の歴史文化を守り抜くまちの推進④港町の海洋文化を磨き上げるまちの推進⑤オクシズの森林文化を育てるまちの推進

創生静岡では市民が幸せを実感できる静岡の実現に向けた人への投資を総合計画の中心に据えることを提示、計画に反映させました。(浜田佑介)

海洋文化施設建設に反対討論

創生静岡は、2月定例会で令和4年度補正予算と新年度本予算に上程された「(仮称)静岡市海洋・地球総合ミュージアム関連議案」について原案に反対、修正議案に賛成の立場で討論を行いました。創生静岡としては、海洋文化の振興については賛同しています。しかし今回の169億円に上る海洋文化施設整備につい

て、どう計画を読み込んで、研究機関との連携は曖昧、事業性もプロフィットロスシェア(利益も分けあうが、損失も分け合う契約)が必要、周辺開発はこれからと、あまりにも未成熟な計画で民間投資や経済波及効果は楽観的であり、市民に海洋文化施設が絶対必要であると理解していただくのは難しいと考えており、計画の修正を求めました。(石井孝治)



創生静岡による提言、市政に反映へ

厳しい行政チェックと創造的政策提言を推進していきます。

創生静岡令和5年度予算への政策提言の3本柱は、①「健全な行政運営の推進」②「災害に強く、持続可能なまちづくり」③「人への投資」です。①では、事業費や事業の必要性の精査、今後の財政見通しと整合性を図ったうえで、実施計画に計画的に取り組んでいくこと。②では、令和4年9月に発生した台風15号の被害を踏まえ、新たに「防災対策の強化」として関連事業をまとめ推進していくこと。③では、実施計画に子育て支援施策や教育環境の整備など、人への投資にかかる事業が盛り込まれたとされました。

【所感】大型公共事業として、清水区における「海洋文化施設」が契約まで進んでしまった事は、事業の優先度・成熟度から見て時

期尚早です。今後、4次総に盛り込まれた「静岡市民文化会館の再整備」「大浜公園リニューアル」「サッカースタジアム」「アリーナ」等の大型事業は、民間投資を期待する一方、物価高騰等により見通せない状況です。厳しくチェックしていく必要があります。防災対策・人への投資に関しては、大きく前進することが出来ました。魅力ある都市とは「人にやさしい街」という言葉だけに終わることなく、「安心・安全」を実感できる街を目指して参ります。(白鳥実)



公立学校、エレベーター設置へ新年度予算は、子育て支援などが拡充される



道路橋や水道管など長寿命化をはかり、災害リスク等を軽減